

入院新型コロナウイルス感染症患者における菌血症予測モデルに関する

臨床研究のお知らせ

研究の目的

菌血症は、ばい菌が血液に入る重症の感染症です。一般に発熱がある場合に、診断や重症度を評価するために血液培養検査します。新型コロナウイルス感染症は、抗ウイルス薬や免疫抑制剤などを使用し、重症の場合は集中治療室で治療することもあります。その治療中に、他のばい菌感染を起こしてしまうことがあります。これまで非新型コロナウイルス感染症の方での、菌血症かどうかの予測モデルの妥当性が報告されているが、現時点では新型コロナウイルス感染症の方で利用できるかはわかっていません。これまでの菌血症の予測モデルが利用できるかを調べるのがこの研究の目的となります。

研究の方法

京都市立病院で以下に該当する患者さんのカルテを拝見し、データを収集、解析します。研究実施期間は2021年12月から2年間としております。

- 2020年1月31日から2021年9月30日までの間に当院で新型コロナウイルス感染症で入院し、血液培養検査を受けた方

(以下の方は対象から除外されます。)

- ・ 年齢が18歳未満である方
- ・ 血液培養陽性の菌が汚染菌のみと判断された方

以下の情報を集めます。

- 基本的な情報：年齢、性別、基礎疾患など
- バイタルサイン：体温、血圧、脈拍、呼吸数、SpO₂、意識状態
- 検査値：白血球数、血小板数、血清CRP値、血清クレアチン値、血液尿素窒素、D-ダイマー、フェリチンなど
- 血液培養検出菌
- 新型コロナウイルス感染症の臨床症状と使用した薬剤などの治療内容

プライバシーの保護

データ収集の際には、みなさんの個人を特定しうる情報（個人識別情報）は院内で厳重に管理します。個人が特定されないよう匿名化し、データの解析を行います。この研究の成果は、学会や医学雑誌などに発表する予定ですが、その際にみなさんの名前や身元が明らかになることはありません。また、この研究は当院の臨床研究倫理審査委員会の承認を得ており、みなさんの権利が守られることが確認されています。

提供いただいた情報は以下の研究者が利用します。

- ・ 與語 葵（京都市立病院 感染症科）
- ・ 栃谷 健太郎（京都市立病院 感染症科）

※情報管理責任者は與語葵です。

研究担当者および連絡先

この研究に関してご質問がある場合や、対象となる方でご自身のデータが研究に利用されることを拒否される場合は、お手数ですが以下の連絡先へご連絡ください。

主任研究者：京都市立病院 感染症科 医師 與語 葵

連絡先：(Tel)075-311-5311 (E-mail) ayogo@kch-org.jp

または、研究責任者：京都市立病院 感染症科 栢谷健太郎
連絡先：(Tel)上記同じ (E-mail) ktochitani@kch-org.jp